

日本は日米安保条約を破棄すべきである。是か非か。

二〇一五年六月五日 開催 〈本学英米語学科 共催〉  
《日米交歓ディベート報告》

## 日本は日米安保条約を破棄すべきである。是か非か。

田島慎朗

- デイビーター……本学学生六名、アメリカ代表チーム学生二名
- デイベートコーチ……セオドア・シエッケルス
- 司会……田島慎朗
- 使用言語……英語

### はじめに

このイベントは、日本ディベート協会と全米コミュニケーション学会の国際ディスカッション・ディベート委員会 (Committee on International Discussion and Debate, National Communication Association) が共催し、GTEC・CBT (ベネッセコーポレーション) が特別協賛した二〇一五年度の日米交歓ディベートツアー・日本ツアーの訪問校の一つに本学が選定されたことで実現したものである。現在国際ディ



肯定側のチーム



否定側のチーム

ベート試合や交流は複数あるが、このディベートツアーはアメリカ合衆国のコミュニケーション研究の潮流の中にその源泉がある。全米コミュニケーション学会はその誕生以降、イ

ギリス、ロシア、東ヨーロッパ諸国との国際ディベート交流を行ってきた<sup>(1)</sup>。日本との交流は一九六七年から続くもので、現在では基本的に隔年ごとに日米両国からディベートチーム派遣しあっている<sup>(2)</sup>。

ここでは、まずはじめに今回行われたディベートというものの概要を短く紹介する。その後、今回交わされた議論の概要を紹介する。最後に、アメリカ代表チームコーチ セオドア・シエッケルス博士からのコメントと聴衆からの質問をいくつか抜粋して紹介して、まとめにかえる。

## ディベートイベントの概要

ディベートという言葉は、英語でも日本語でも定義が幅広く、議論の交換や話し合いといった意味あいで行われることがある。しかし、ここで行われたディベートは、組織された一連の流れを厳密なタイムテーブルのもと遂行する、競技としてのディベートである。この意味でのディベートは教育手法として発展してきた経緯がある(以後、この意味でのディベートを教育ディベートと呼ぶ)。その特徴は、参加者があらかじめ決められた一つのトピックと、それに対する立場(肯定側と否定側)を定められ、複数の独自の目的を持ったスピーカー、相手のスピーカーへの質疑応答などを流れにそって行いながら、議論を収斂させていくところにある。したがって、ス

ピーチの内容は戦略的に組まれたものであり、スピーカーの信条や価値観とは切り離して考えるべきである。

また、教育ディベートのもう一つの特徴として、ディベーター以外の人間が客観的な立場から試合全体を見学し、最後に投票を行うことも挙げられる。審判役がいる場合、その人が代表して投票を行い、勝敗を決する。今回のイベントのように、一般の観客を主な対象とした場合、観客が拍手をしてその音が大きかったほうを勝ちとするケースもある。この教育手法としてのディベートは、現在日本では複数の言語、さまざまな形式で、学校の教室や高校の部活動、大学・社会人のサークル活動などで、幅広く行われている。

この活動を複数回行うことにより、批判的思考能力、論理的思考能力、口頭発表能力などのコミュニケーション能力を養うことがこの活動の目的である。今回のツアーでは、アメリカ合衆国で主に発展してきたエビデンス重視型(evidence-based)の政策(policy)ディベートというスタイルをとったが、このスタイルをとると情報収集能力や検証能力、文章読解能力の向上もあわせて期待できる。また、今回のイベントのような場合は、観客側に教育効果を期待してイベント自体が開かれる場合が多い。

今回のトピックは、「日本は日米安保条約を破棄すべきである、是か非か。(Resolved: That Japan should terminate the

日本は日米安保条約を破棄すべきである。是か非か。

英 語	日本語訳	時 間 (分)	担当者
Affirmative constructive speech	肯定側 立論スピーチ	5	初田百合瑛、 IC 学科三年
Preparation time	準備時間	1	
Cross-examination	否定側からの質疑	3	
Negative constructive speech	否定側 立論スピーチ	5	甲斐雄大、 英米語学科三年
Preparation time	準備時間	1	
Cross-examination	肯定側からの質疑	3	
Preparation time	準備時間	2	
Negative attack speech	否定側 反論スピーチ	2	鈴木沙江子、 英米語学科三年
Cross-examination	肯定側からの質疑	2	
Affirmative attack speech	肯定側 反論スピーチ	2	Cody Walizer, University of Denver
Cross-examination	否定側からの質疑	2	
Preparation time	準備時間	2	
Negative defense speech	否定 再構築スピーチ	2	クウオン・ミソ、 留学生別科
Affirmative defense speech	肯定 再構築スピーチ	2	岩名謙太、 英米語学科二年
Preparation time	準備時間	3	
Negative summary speech	否定 総括スピーチ	3	中田麻美、 英米語学科三年
Affirmative summary speech	肯定 総括スピーチ	3	Natalie Bennie, Samford University
Total	計	43	

タイムテーブルとスピーカー名

Japan-U.S. security treaty.)」である。試合に登壇したのは、米国から派遣されたアメリカ代表チームと小坂貴志教授(本学英米語学科)の担当する「英語デイベート」クラスからの選抜学生であった。論題を支持する肯定側 (the affirmative side) はアメリカチームと小坂教授のクラスの学生が共同で担当、否定側 (the negative side) は小坂教授のクラスの学生がチームを組んで担当した。タイムテーブルは、初心者にも親しみやすい全国高校英語デイベート連盟で考案されたものを一部改定して使用した。八三頁にタイムテーブルとスピーカー名を記す。

### 議論の内容

ここでは、議論の詳細を示す。肯定側からは、日本国から安全保障条約を破棄することで起こりうる二つのメリットが主張された。一つ目のメリットは、安保協定に伴う日本からの多大な支出を国内向けに回せることよって発生する経済的なメリットである。二つ目は、米軍基地が集中する沖縄県の県民への負担がなくなることである。

一つ目のメリットに関して、否定側から二つの反論がなされた。一つ目は国内の長期不況の中、予算を回しても、経済効果は期待できないというもの、二つ目は浮いた予算がそもそも経済に効果のある対策として使われる保証がないという

ものであった。

二つ目のメリットに関して、否定側から二つの反論がなされた。一つ目は、国民の八四パーセントが安保の地域安定効果を肯定的に捉えているという内閣府の統計資料を用いて、沖縄県民の事情よりもそちらを尊重すべきであるというものだった。二つ目は、NHKの調査による、半数以上の沖縄県民が安保体制を望むというものだった。

否定側からは、安保を破棄することによるデメリットが一つ示された。それは、地域の不安定化による紛争、核戦争の可能性である。特に中国による侵略の可能性であった。

デメリットに対して、肯定側から二つの反論がなされた。一つ目は、過去長年の東アジアの安定を考えると、安保破棄による紛争の勃発は考えにくいというものである。二つ目は、立論の証拠資料に直接的な因果関係を示すものがなかったという証明の不備をつくものである。

これらの議論を踏まえて再度双方から立論の再構築 (re-tense) がされて、最後に否定側、肯定側からの総括のスピーチが行われた。総括とは、双方の立論から再構築までの議論展開を踏まえ、どうして自分たちに投票すべきかという全体評価の議論を行うスピーチである。

否定側からは、デメリットで述べられた紛争や核戦争は地球規模的な弊害であり、一度起きてしまったら取り返しがつ

日本は日米安保条約を破棄すべきである。是か非か。



会場の様子

かない甚大な被害が懸念されるということが強調された。肯定側からは、デメリットの証拠資料の立証が不十分なことと、メリットの経済、沖縄県民の被害という二つが確実にもたらされるものであるということを踏まえ、確実に日本全体、そして沖縄県民に利益をもたらすために、安保を破棄すべきだという議論がなされた。

## まとめ

試合の後には、コーチのシェッケルス博士からのコメントを発表する場が設けられた。以下の三点にまとめて紹介する。

- 一、デイベーターの努力をたたえるコメント。外国語でのような精密な議論のやりとりをするということへの敬意と、短い時間でこれほどの準備をしたことへのねぎらいの言葉が寄せられた。
- 二、デイベーターのメリットに関するコメント。特にエビデンス重視型の試合をすると、リサーチを含めてデイベーターの経験になるので、トピックへの視野を広げてくれることに多いに役立つことが述べられた。また、デイベーターはあらかじめ立場が決められ、そこで戦略的な議論作成を目指すので、さまざまな角度からトピックや立論の議論を検証する視点が養えることが述べられた。
- 三、公開デイベーターイベントに関するコメント。聴衆はこのようなイベントに参加することで、トピックを深く考える契機になる。これはニュースを聞いたり新聞を読んだりする以上の効果があり、政治を形作る基礎となる、市民教育としての役割があることが強調された。

この後、聴衆からの質問の時間が設けられた。質問に対するシェッケルス博士とディベーターからのコメントは、以下の二点に集約される。

一、大学間ディベート大会に出場することは、とても教育的意義のある活動である。その理由の一つとして莫大な知識量があげられる。年間共通トピックを扱うエビデンス重視型の政策ディベートの活動に参加すると、複数のクラスで学ぶ知識の合計よりもトピックに関する知識を得ることが出来る。また、もう一つの理由として、養うことが出来る視点をあげられる。即興型ディベートは試合ごとにトピックが違いますが、どのトピックもパブリックな場で議論になるものである。参加経験を通じて、それぞれの議論にはそれぞれ異なる価値や背景があることが理解できる。

二、このイベントのように国を超えてディベート交流を行うことは、国家間の意見の違いや食い違いとはまた別のところで、私たちの間でのコンセンサスをもたらしることが出来る。ディベートを行うことは、それ自体それぞれ集団や社会、国の立場に立って議論することが求められる。それに加えてこのように国際ディベート交流を行うことで、異なった文化的背景を持った人

との交流が出来る。

(二) アメリカ代表チームの Cody Walizer さんより即興型ディベートの世界大会の様子が話される)

ディベートの試合という機会があると、他国の人とより深いところで交流するのが容易になる。世界大会に参加して感じたのは、私たちは全て人間である、ということだ。誰もが間違いを起こすし、誰もがそれを直すチャンスを与えられる。世界大会という大きな大会では、誰もが自由自在に自分たちの考えを議論という形で発表する。コンセンサスへの可能性はそういうところにも見い出せるのではないか。

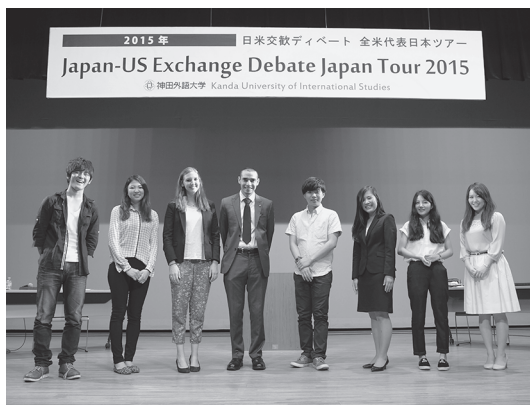
#### 注

- (1) 詳細は国際デイスカッション・ディベート委員会のウェブページを参照。 <http://www.natcom.org/CIDD>
- (2) 詳細は日本ディベート協会のウェブページを参照。 <http://japan-debate-association.org/en/seminar/exchange/history>
- (3) 詳細は一般社団法人 全国高校英語ディベート連盟のウェブページを参照。 <http://henda.global>

日本は日米安保条約を破棄すべきである。是か非か。



コメントするアメリカ代表チームコーチのシェッケルズ氏



ディベーターの学生達